

同窓会長 梅沢 仁

ごあいさつ



体育館

時の針

発行 同窓会 仁
会長 梅沢山 410
事務局 児玉町八幡山
県立 児玉高校 内

親愛なる同窓生の皆様にはますますお元氣にお過ごしのこととお慶び申し上げます。常日頃本会発展と母校隆昌のために、格別のご理解とご協力を賜り誠にありがたく心よりお礼申し上げる次第であります。母校も七十才という年令になりまして、ますます学業に、部活動に元氣あふれる努力を尽しており私共卒業生としてまことに嬉しく力強く思っておるところであります。

さて、平成四年度の総会が四月二十六日母校に於いて開催され多数の会員の出席をいただきました。本年は母校創立七十周年という記念すべき年でもあり熱い総会でした。第一回の卒業生も出席され花を添えてくださいました。上程議案は全て満場一致にて可決承認されました。母校創立七十周年記念事業として、同窓会館(記念館)を建設することが決定されました。一万七千有余名の同窓生が総力を挙げてこそ成し得る一大事業であ

ります。兼ねてより母校では地域に愛され活力ある魅力ある学校づくりと、優秀な人材を健全育成する為にPTA、後援会、同窓会と一体になってその目的に向かって努力して参りました。

ここに、創立七十周年を迎えるにあたってより良い教育環境の充実を図り、元氣あふれる挑戦意欲いっぱいの子生の育成と、個性豊かな児玉高校づくりに協力支援を致し母校発展の一助として、同窓会館建設事業を本会の行事計画として総会に上程しご賛同を得たわけです。今高校教育界は厳しい環境にあります。学生の減少、各学校の個性化、落こぼれの退学現象等々のウズの中で、厳しいサバイバル競争をいられています。母校も例外ではありません。そんな中において母校は生き残らなくては困ります。今こそ同窓生が奮起し応援する時です。時移り、学舎が変わっても、児玉高校の門を出た絆はかたくふるさと、母校恩師、友を愛し大切に、大事に致しましょう。

つきましては、今回の大事業にはなにごんにも莫大な経費を要します。同窓生の皆様の絶大なご協力、ご寄附がなくては、とても実現出来ないのであります。一万七千有余名の同窓生の誠意ある積極的且つ迅速的なご支援をいただいで、この事業が見事完遂されますようお願ひ申し上げる次第で

平成3年度 事業報告

ございます。尚創立七十周年記念同窓会館建設募金趣意書を送らせていただきました。会報「時の針」第八号も同封致しました。よろしくお願ひいたします。役員一同一生懸命に努力してまいりますので皆様の特段のお力添えをおねがい申し上げます。

終わりに同窓生各位のご健勝と会のご発展、併せて母校の益々のご隆栄をご祈念申し上げてお願ひとごあいさつにさせていただきます。

- 4月25日 同窓会会員名簿発行 (70周年記念版)
- 4月28日 総会、於母校(103名)
- 5月1日 役員会・懇親会も開催 (テレホンカード増刷 (800組))
- 9月26日 中高連絡会、於本庄市 埼玉グランドホテル (61名)
- 9月29日 観劇会、於帝国劇場 (51名) 華岡青洲の妻
- 10月1日 『時の針』第7号発行 全会員へ送付
- 2月1日 新年会、於本庄市埼玉グランドホテル(133名)
- 3月7日 入会式、於母校 会長ほか役員出席
- 3月9日

70周年を 迎える母校

学校長
島田道郎



新緑の美しい季節となりました。同窓生の皆様には、益々ご健勝で活躍のこととお慶び申しあげます。平素、母校の教育が隆盛になりますようご協力くださいまして誠にありがとうございます。本年度、同窓会員数も壱万七千五百余名となり、ますます有力なものとなり同慶のいたりです。特に本校同窓会が立派である点は、会長さんを中心に強力な組織力をもっていることや各種委員会が盛んに活動していることにあると思えます。また、同窓会活動の多くが、母校の発展につながるような後援的な内容が多いことに対して、大変ありがたく衷心よりお礼を申し上げます。母校は大正十一年の開校以来幾多の変遷を経て、本年度で七十周年を迎えたわけであり、この間、学習面でも、運動部の活

動面でも数々の実績をあげてまいりました。この伝統の上に、更に時代のニーズに応えた特色ある学校づくりを行い教育の効果をあげるよう努力しております。創立七十周年にあたる本年、懸案であった体育館を改築し、体育コース二クラスを発足させました。体育館の新築等の事業は、七十周年記念事業の一環として推進させております。体育館の緞帳、照明、放送、体育施設設備などいづれも一流のものを設置することができました。更に体育館の外溝やテニスコート、更には体育館の玄関前にロータリーの設置、校舎からの渡り廊下の改築などの整備が行われました。これ等は県当局を始めPTA、後援会、同窓会の特別なご配慮によるものと深く感謝しております。これに加えて、一連の事業の仕上げともいふべき同窓会館の建設が四月二十六日の同窓会総会において決定されたことは誠にありがたく喜びにたえません。同窓会館の建設は、同窓会の発展はもとより母校教育の興隆のために計りしれない効果があると思えます。体育館の北側に百余坪の堂々たる同窓会館が完成すると、体育館を中心とした施設の景観は見事で、その機能と合せ、本校施設の目玉となり、自慢の一つになることと思えます。早い機会にこの体育館で七十周年の記念式典を盛大に行いたいと思えます。皆様の物心両面からのご協力をお願いしましてごあいさついたします。

「部活紹介」

卓球部



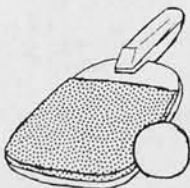
会員の皆さん今日は、卓球部です。活動状況を紹介いたします。現在の部員は男子十八名、女子十一名で毎日練習に励んでいます。男子はここ数年、部員が少なく上級生がない状況でしたが、ようやく部員も増えて活発な活動ができるようになりました。特に今年度は体育コースが設置されて期待

できる部員が入部しました。四月におこなわれた県北部予選でも活躍が目立ちました。女子の成績は前年度では新人戦の県北部予選で団体準優勝、ダブルス三位。今年度の県北部予選でもダブルスで二位となり、着実に力をつけて個人・団体とも県体出場を果たしました。活動場所である合宿棟の練習場からは毎日元気な声が響いています。しかも、この春休みには卓球台が全部新しくなり、部員一同一層はりきっています。

活動内容はトレーニングに始まり、フットワーク、課題練習、ゲーム練習などを主に行っています。夏季の校内合宿では集中力を強化するため、「千本打ち」に取り組んでいます。

以上のような活動をしています。卓球だけに限らず、部活動を通じて強い身体と精神力を培うとともに、社会人としてのマナーをしっかり身につけることを心がけています。生徒ひとりひとりの成長を期待しつつ、今後の活躍にご期待下さい。

今後とも皆さんのご指導、ご支援、ご鞭撻のほどをよろしくお願いたします。



同窓生作品

『母校へ寄贈』



憩う時

高校第10回卒業生の大木英穂氏(美里町在住・画家)に同窓会で母校へ寄贈する作品の製作をお願いしていただきましたが、平成3年11月16日受領し、図書館へ掲げることが出来ました。

大木氏は母校卒業後、東京芸術大学へ進学、絵画の道を歩まれ、現代日本の洋画界期待の星であります。

作品の題名は『憩う時』、大木ブルーを基調として、明るいイメージの世界を想像させてくれます。図書館の中で在校生に喜んで頂いております。

大木氏の多大なるご協力に深く感謝申し上げますとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。



平成4年度

教職員人事異動

(敬称略)

教諭 伴場 脩 退職

藤掛 サクラ 本庄高校
古末 行一 本庄高校

教諭 石川明比古 熊谷高校
佐藤加代子 本庄高校
黒沢直広 秩父東高校
事務室長 関根 利幸 退職
主任 笠本 正 本庄養護学校
事務助手 小浜 増子 退職
養護助教諭 山口千恵子 本庄東高校

(転入・新任)
教諭 中原 尚子・山口由美子
星 幸代・小久保 勝

事務室長 境野 素行
主事 柴崎 成美
教諭(定) 飯塚 清徳
養護教諭(定) 小野寺まゆみ

本部役員と理事

会長 梅沢 仁 俊雄
副会長 井上 悟子 小林 公博
理事 武田 広研 貫井 一夫
幹事 根岸 俊一 松本 一夫
幹事 高木 清憲
幹事 石井 敏郎 (幹事兼任)
監査役 高橋 俊子 坂本 文江
相談役 高柳 幸男 林 喜一
校内理事 鈴木 和夫 渋谷 正敏
理事 新井 初枝 志村 孝子
柴崎 督子 塩原 孝子
萩原 泉 内田 美雪
福嶋 興 小茂田 洋子

葛西 隆与 高橋 正弘
持田 勝男 南 正
茂木 賢 山田マサミ
星野 克己 根岸 義守
秋間喜代子 荒巻 恒好
中村 伸 荒井 一夫
新井 都明 岩崎 勲
遠藤 洋児 小林八重子
本藤 秀夫 鈴木 政弘
立花 正寿 熊倉 清治
出牛 幸平 新井 一紀
久保佐代子 浅見 葉子
神岡 和年 安齊 透
飯塚 芳江 増田 民子
堀越 勝己 藤森 武
沖村 良子 岩上 高男
田島 久夫 新井千恵子
黒沢 勇八 須野原 勉
武内 順子 瀬山 尚志
森 克司 石坂 弘行
脊山 知教 川上 守之
阪本 和絵 根岸 寛
福島 慎治 新井 隆
小島 勇一 塚本 隆明
武田 欽一郎 小倉 正貴
田島 優子 高木 弘之
芳野 松田 吉司
石川 克彦 長谷川志野夫



サッカー部の指導を 回顧して

落合明弘

退職して既に10年になり、28年間サッカー部顧問として、部員の指導を担当してきた。28年間を振り返って見た時、二つの節目に区分することが出来る。

第一の節目は15年間であり、目標を地域大会の優勝におき、猛暑寒冷を厭わず毎日練習に顔を出し、部員と共に「走り」また「ボールを蹴り」大声で叱咤激励したものである。

当時任意参加の「東日本高校サッカー大会」が国立競技場を中心会場として開催されていたが、発展的に改編され、関東サッカー協会、関東高体連サッカー専門部共催の、第一回関東高校サッカー大会が浦和市で開催され、埼玉勢が大いに活躍し気をはいた。

児玉高校もこの地域大会に出場すべく、立教大学現役選手の中田(元日本鋼管監督)渡辺(元日本代表チーム監督)両氏をコーチに招聘し、基礎技術、連係プレー、戦術の徹底的指導を受け、試合に勝つ要領を習得した。

地域大会には第四回藤沢大会、第七回館林大会、第十回藤沢大会

に出場することができた。

第二の節目は残り13年間である。目標を全国大会出場に置いた。当時の部員はよく練習に励み努力を重ねたが、逆に指導者は校務の都合でグラウンドに出る機会が少なくなつたので、専任コーチを置くことにした。

よきコーチに恵まれ、特に3年生1名のチーム編成で、県民体育大会サッカーの部で優勝することができた。これを契機として、部員の志気もいやが上にも高揚し、練習も過酷な程になった。

1972(昭和47)年第15回関東高校サッカー大会(水戸大会)で関東の強豪チームと対戦し、初優勝の栄冠を得ることができた。その余勢を駆って、練習にも熱が入り、その年に念願の全国高校総合体育大会(山形大会)に初出場

の権利を獲得した。故福永健司協会長の言葉に「埼玉を征するものは、全国をも征する」は全員の重圧であったが、幸いにも第3位の成績を収めることが出来た。

1973(昭和48)年の伊賀上野大会に於いては、埼玉真高校サッ

カーの伝統と、児玉町ぐるみの声援(町技サッカー)をバックに勝ち進み、決勝では北陽高校(大阪)と猛暑のなか再延長の白熱した試合の結果(児玉2-1北陽)ついに夢にまで見た念願の初優勝をなし遂げた。

1974(昭和49)年の佐賀大会は決勝戦で決定的チャンスを持ちながら、延長戦に連れ込み(児玉1-2浜名)惜敗し準優勝に終わった。

翌1975(昭和50)年、葦崎大会にも出場したが、猛暑は筆舌に尽くしがたいものであったが、幸いに決勝戦まで勝ち進んだが(児玉0-1葦崎)再度準優勝に甘んじた。

1975(昭和50)年待望久しい全国高校サッカー選手権大会に埼玉地区代表として出場することができた。鍛えに鍛えられた各地区強豪チームと、連日寒気厳しい中で苦しい試合に終始し、準決勝戦(児玉0-1帝京)残念にも惜敗した。3位決定戦は(児玉0-0相模工大付属)両チーム3位に終わった。

しかし、連続5回全国大会に出場し、優勝1回、準決勝2回、3位2回とすべて入賞を果たすことができたのも、秀れた資質を持った数多くの部員に恵まれ、学校を始め、PTA、同窓会、サッカー父母の会、町当局の理解ある支援によるもので、感謝している。

これら大会を頂点にその後地域大会に5回出場したが、夢も一度の実現ならずして節目は終わってしまった。



全国大会優勝パレード

脳裏を掠める印象の場面

山形大会第2回戦(児玉7-1相馬)完勝したが、GKの不注意(スパイクの紐を立ち脚で踏みボールを蹴ることができなかった)から1-1になった。その直後のキックオフでボールを渡された1Rが相馬高ゴールに直接シュートをし、ゴールインになったのは初めての経験であった。

上野大会における第3回戦、児玉-相模工大付属の試合は大雷雨となり、後半グラウンド脇の送電線の大鉄塔に落雷し危険な状態で

あり、審判部が協議の結果45分間試合を中止した。しかし、隣接グランドでは清水東一本郷戦は豪雨の中、試合は続行されていたのである。この試合中断は実に珍しいケースである。

佐賀大会の決勝戦(児玉ー1)延長戦も互角の試合となり、各々決定的チャンスを迎えるも得点に結びつかない。しかし浜名のORのショートコーチをRBがノートラップで20米からのロングシュートがゴールの左隅につきささった。実に見事な得点には驚嘆した。常に練習をし一本狙っていたとのことである。

(次号にも続きます)



目標は

児玉高校

高校第24回卒業

福島 慎 治

時の立つのは速いもので、私が児玉高校を卒業して20年になろうとする年月が過ぎてしまいました。今、この会報原稿を書きながら20

年前の自分を思い出そうとしても忘れたことの方が多くて呆れるばかりです。高校卒業以来、会ったことのない同級生の何と多いことか。まして、今でも時々会っている人は数人しかいません。結局、私の高校生活は充実したものではありません。なかつたようですが、運命のいたずらか、現在の私は隣の中学校勤務です。毎年70〜80人ぐらいの生徒が児玉高校へ進学していく様子



中高連絡会

を見る度に、彼等には悔いのない高校生活を送って欲しいと願うばかりです。

私が高校受験した23年前と今の高校入試とを比べてみると、日本が経済大国へと変化したように入試も変化しました。高校の数が増え、大学進学に力を入れたり新しい学科やコースを設置するなど、特色ある高校が多くなりました。一方、受験生の方は、高校生活に要する費用をあまり気にせず、そこで得るメリットを求めて高校を選択するようになりました。多少のお金がかかっても、それに値するものが高校で得られるなら、安上りの高校よりも良いという考え方が増えていきます。これからは、「児玉高校へ進学すれば、どんなメリットがあるか」と考える生徒に対して、先輩として親としてどんな方法でメリットを伝えるかが大事でしょう。また、たとえメリットがわからず児玉高校へ入学した生徒がいたとしても、3年間でメリットを見い出せるような高校のシステムがあれば良いと思います。今年の入試では、新しく体育コースが設置され、そこを目指す生徒が増加し、推薦入学と合わせて児玉高校の人氣が上昇しました。これからも将来を見越した精神と取組で、児玉高校のメリットを創造して欲しいと思います。私も卒業生一万七千人の中の一人として、多くの中学生が「児玉高校へ進学してみたい」と考えるように微力ながら努力してみるつもりです。

総会に

出席して

実科第1回卒業

関 根 梅 子

桜の花も散り、うきうきした気持ちもようやく落付きを取戻し初夏の若葉の香も漂う頃、母校児玉高校七十周年に当たる本年の総会開催に役員の皆様の御骨折に對し心から感謝の言葉を送ります。懐しい方、お会いした事もない後輩の皆様のお顔を拝見し、只嬉しさに老いの目に熱いものがこみあげて参ります。

皆様の熱い御厚情の籠った花束を頂戴し胸に抱いた時、駒下駄を履き袴を着け教科書を風呂敷に包み胸に抱いて、近所の人達の羨望の目を全身に受けて学校に通っていた頃の事が思い出され、若さを取戻した気持ちは何と表現しようかわかりません。第一回の卒業生と言うだけで、これほど大事にして戴く私達は幸せ者です。この感謝の念に報ゆるには何時迄も健康を保ち、誰からも好かれる老人である様心掛ける事をお誓い致し、御礼の言葉に代えさせて戴きます。



企業から卒業生に望むこと

株式会社 磯部製作所

代表取締役 磯部 義一

児玉高校創立七十周年記念、誠におめでとうでございます。心よりお祝詞申し上げます。ここ迄の過程に於きましては、諸先生方を初め多くのご先輩諸氏のためまぬご努力の賜と深く感銘を受ける次第でございます。

企業では、それぞれの場、それぞれの仕事を通していかに会社に貢献したか、価値を生み出したかで評価されます。そして企業活動の結果として得る利益は、とりもなおさず社会からの評価に他なりません。ですから、企業の一員となつて仕事をするということは、いかに地域社会に貢献するか、社会的な価値を生み出すか、といった具体的な形で磨きがかげられ、人間の成長が促されていきます。企業では、社員一人ひとりが能力を伸ばし、個性を開花させていくような場と機会を提供していき、そうしたことの積み重ねで、創造力に富み、創造的企業組織が完成されていきます。そして人との和も企業に欠かせない大切な要素です。ところで、これからの社会は企業の多様化に伴い、国際的感覚

が要求されるようになって参ります。企業としましては新鮮な感覚を持ち合せた若い力を必要としております。経験豊富なベテラン社員と新進気鋭の諸君達のような力がうまくかみ合った時、それは素晴らしいものが生み出されるものと確信いたします。国内は勿論、国際的に通用出来る力をつけてください。そして、人間にとつて一番大事なことは、いろいろな事を取り入れる能力であると思えます。一般的な近頃は最初から取り入れようとしなない若い人を見かけます。相手の意見に異を唱えることが自己主張とか、個性的と考えているのかも知れませんが、それでは狭い範囲の中で自分をくつてしまふ事になってしまふので、心を広くして、取り入れるだけ取り入れて上手に取捨選択して下さり。それが大きな人間になることにつながるのだと思います。幸い、当地は国文学者で有名な境保己一という偉大な先生が誕生された処です。皆さん方もどうぞ能力を充分發揮されて目標を大きく持つて立派な社会人に巣立ってください。

先生方におかれましては、若いエネルギーいっぱい生徒さんのご指導のご苦勞・ご努力は並大底の事ではないとご察示致します。ですからこそ、果立ち行く皆さんと接する時の喜びは何ものにも替え難い喜びとなつて返ってくるのではないのでしょうか。児玉高校の卒業生の皆さん、二十一世紀に向かって大きく羽搏いてください。大いに期待しております。終わりに児玉高校の益々のご繁栄を祈念申し上げます。

委員会 だより

同窓会運営の中心となつて活動している委員会を毎回紹介していますが、今回は親睦活動委員会を紹介いたします。

親睦委員会は「総会、支部会、同期会の開催を援助し、新年会、旅行会、講演会など委員の親睦を深める活動にあたる」委員会として活動しています。平成3年9月には観劇会(華岡青洲の妻、帝国劇場)を行い大変ご好評をいただきました。また本年の9月には『日帰りバス旅行』を予定しておりますので、多勢の皆様のご参加をお待ちしております。今後ともよろしく願ひいたします。



総会にて

親睦委員 プロフィール

副会長 井上 悟子(高女第15回)
本庄市北堀在住
(一言) 今年は児玉高校創立七十周年と言う記念すべき年であります。皆様のご協力を仰ぎ乍ら、記念の年、思い出の年にしたいと思っております。また、親睦委員会では、皆様の益々の親睦を図るために、新年会、親睦旅行、観劇会等の行事について色々努力、工夫をしております。一人でも多くの会員のご参加が得られますよう、ご協力をお願い申し上げます。

委員長 鈴木 要子(高校第3回)

児玉町八幡山在住

(一言) 4月26日の総会には第1回卒業生の春山様、織茂様、関根様御三方のご出席をいただき委員一同、感激しております。どうぞ益々お健やかにて、ご活躍の程を祈念申し上げます。尚、母校創立七十周年事業達成のために、会員皆様の親睦の和を広げ、ご支援・ご協力の程をお願い申し上げます。

副委員長 柴崎 督子(高校第5回)

本庄市栄在住 柴崎税理事務所

(一言) 私の過ぎ去った青春の、一ページを飾る児玉高等学校が、ますます発展しますようお祈りいたします。

幹事 小茂田洋子(高校第7回)

児玉町秋山在住 児玉町役場勤務

(一言) 光陰矢の如しとはよく言ったもので、私も卒業し早や三十七年の発展には目を見張るものがあり特に今年度は創立七十周年を迎えるにあたり同窓生皆様方のより一層のご協力をお願いし、微力ではありますが母校発展のため、頑張りますのでよろしく願います。

委員 葛西 隆与(高校第7回)

児玉町児玉在住 児玉町役場勤務

(一言) 同窓会のコミュニケーションを通じて、年令を問わず同窓会の和を広げ、母校の活性化のため

又、七十周年記念事業達成のために頑張りたいと思います。

委員 吉田 節子(高校第3回)

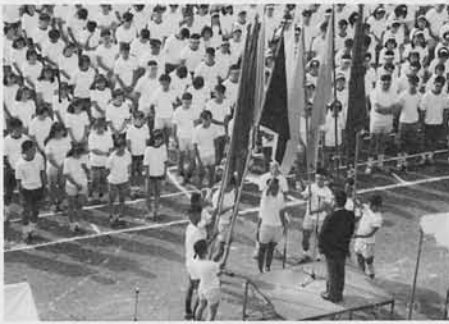
上里町神保原在住

(一言) 母校発展のため、又親睦活動を始め、同窓会活動のために努力しますので、よろしく願っています。

委員 萩原 泉(高校第5回)

本庄市南在住

(一言) 皆様のお役に立てるよう七十周年を迎えた母校の益々の発展を願ひ、頑張りますのでよろしく願ひいたします。



体 育 大 会

委員 内田 深雪(高校第5回)

美里町古郡在住

(一言) 役員の一員として、母校七十周年事業の応援や同窓会活動

に一生懸命やっておりますので、よろしく願ひいたします。

委員 高橋 正弘(高校第7回)

児玉町蛸川在住 児玉町農協勤務

(一言) 七十周年を迎えた母校のための協力と、同窓会事業推進のため努力して行きますのでどうぞよろしく願ひいたします。

委員 持田 勝男(高校第7回)

美里町猪俣在住 農業

(一言) 懐かしく、身近に感じられる同窓会でありたいと思います。皆様の格段のご協力をよろしく願ひいたします。

委員 山田マサミ(高校第8回)

児玉町児玉在住

(一言) 母校誕生七十周年とのことで、私は大変うれしく、又、誇りに思っております。同窓会の皆様方には、母校発展の為に一歩でも前進する様ご協力下さっている様子がうかがえます。私も昨年より役員の仲間入りさせて頂きました。目標達成の為に、小さな成果でも出ることを期待して、努力して行きたいと思ひます。

委員 星野 克己(高校第8回)

児玉町吉田林在住

(一言) 創立七十周年おめでとうございます。母、娘と三代お世話になった母校の七十周年を迎え、時の流れ移り変わりをしみじみと感じ入っております。今期親睦委

員として自分の出来る事は頑張りたいと思います。どうぞ皆様の御協力を宜しくお願いいたします。

委員 江原スミ子(高校第9回)

児玉町児玉在住 児玉町役場勤務

(一言) 今回役員に推薦され、母校同窓会のお手伝いをさせて頂く事に成りました。微力ではありますが頑張りたいと思ひますのでよろしく願ひ致します。

委員 茂木 節子(高校第9回)

児玉町太駄在住 新井石油

(一言) きしむ木の校舎からスキリした姿に生まれ変わった母校をことあるごとにたずねられる事を心から嬉しく思っております。

記念誌原稿募集

母校では、創立七十周年記念事業の一環として、記念誌の発行(平成五年十月予定)を計画しています。児玉高校七十年の歴史を記録したものと、皆様の母校に対する厚いお気持ちを合わせたものにしたいたと考えておりますので、原稿を是非ともお寄せ下さるようお願いいたします。

原稿用紙はご自由で結構ですが、在学中の出来事、恩師・友・故郷の思い出等を八百字程度にまとめて頂き、氏名、卒業年ご記入の上、八月三十一日までに事務局へお送り下さるようお願いいたします。

母校創立七十周年を迎える



伝統の我が母校は、今年 開校70周年を迎えます。大正11年の開校以来、実に一万七千余名の同窓生を社会に送り出し、各方面での同志の活躍は目をみはるものがあります。

七十周年記念事業として 同窓会館を建設

募 金 要 項

- ◎目標額 一億円
- ◎一口 五十万円(二口以上のご協力をお願いします)
- ◎対象 同窓会員及び募金の方
- ◎納入方法
 - ①金融機関による振込みの場合は、郵便局又は指定契約の金融機関へ納入願います。
 - ②直接母校に納入の場合は、児玉高校事務室にご持参下さい。
- ◎期間 平成四年七月より平成五年三月まで
- ◎免税措置 所得法・法人税法による寄付金として、免税措置が受けられるように申請中です。
- ◎収支報告 募金終了後、寄付者芳名簿とともに収支決算書等をお送りします。

建設概要

- ◎建設予定地 新体育館北側
- ◎面積 四百三十平方メートル
- ◎構造 重量鉄骨造平屋建
- ◎内部施設 会議室、資料室
- ◎建設費 一億円
- ◎完成予定 平成五年三月

同窓会館平面図(案)



◎建築面積 430㎡(130坪) 会議室 50㎡(15坪)
 多目的ホール 330㎡(100坪) 資料室 50㎡(15坪)

70年の主な歩み

- 大正11年 埼玉県児玉実科高等女学校として、児玉町立児玉尋常高等小学校内に開校。
- 同 14年 校名を埼玉県児玉高等女学校と改称。
- 昭和5年 県立となり、同年4月1日、埼玉県立児玉高等女学校となる。
- 同 23年 男女共学制となり、埼玉県立児玉高等学校となる。
- 同 24年 定時制を併置する。
- 同 51年 創立50周年記念、管理棟・合宿棟落成記念式典を挙行する。
- 同 58年 創立60周年を迎え、近代的な新食堂が完成。
- 平成2年 推薦入試を実施。
- 同 4年 体育コースを設置。
- 同 4年 新体育館が完成。

各界各層のリーダーとして活躍している仲間の中には、かつて運動部で大きな実績をあげた者も多い。女子バスケット部や卓球部のインターハイ・国体への度重なる出場、サッカー部のインターハイ優勝、柔道部の全国選抜大会・関東大会連続出場など。また児玉高校をふみ台にして大学・社会での活躍も目立つ。こんな中で母校は、体育コースの設置や新体育館の完成でまたまた全国にその名を轟かせようとしている。

こんな時、我々の力の結集『同窓会館』のプレゼントは大きな弾みとなることはまちがいないはずだ。未来のオリンピック選手を我が母校から送り出せるのも遠い夢ではない。

母校発展の弾みに

計報

中島俊朗先生が平成4年2月9日御逝去されました。中島先生は昭和47年4月着任、社会科学の授業を始め、教務・教育相談担当等、学校運営の中心となって活躍中でありました。

また、OB職員(高校第6回卒)として、同窓会の事業推進のため、長年に渡りご尽力をいただきました。心より御冥福をお祈り申し上げます。

会員おたより

ささやかな

国際貢献

高校第4回卒業

田中 弘

退職してしばらく、人生の充電などと、家でのんびりしていた昨年のある日。請われて再度教壇に立つことになりました。今度は日本人ではなく、南米から来日している日系人の子女を対象に日本語を指導することで、中学高校時代

を通し英語が不得意だった私が高になってポルトガル語やスペイン語と縁が出来るとは、何か因縁めいたものを感じ、しばしため息の連続でした。しかし、子供たちの資質が良いのか私の指導が良いのか?、時がたつにつれ、子供たちはかなり日本語が上手になりました。これもささやかな国際貢献と自負しているこの頃です。

子供たちは帰る時にチャオ・ゲッドバイ・サヨウナラと三ヶ国語で挨拶をして帰って行きます。

母校益々の発展を

高校第12回卒業

倉林 伸夫

「校門を入れて目に入る樹木、それは七十年の歳月と重々しい落ち着きを感じさせる。木々は来る春ごとに新しい芽を吹き、いつまでも新生を続けていく。そこに児玉高等学校の歴史と現在を造りつつある象徴をかいま見る思いがした。これは、五月の連休に帰省したおり、数年ぶりに、母校の前を通り抜け、しばし、駐車して校庭を眺めた感想です。

柔道部をはじめ、野球部、サッカー部などの活躍を新聞で読むたびに、三十二年前、自宅から二十分、表通りを意気洋洋と歩いて登校した母校の素晴らしさを、胸を躍らせ、誇りをもって、高校生に

なったわが子に今でも語ります。母校が益々充実・発展することを祈念いたします。

生かされて

高校第19回卒業

篠原 あけみ(旧姓中沢)

先日、テレビで『死に方講座』なるものを放映していました。いろんな議論が出され興味深く拝見しました。

我々生きているもの全ては常に死と隣り合わせに生きています。又誰一人、自分の死の解る人はいないと思うし、毎日の多忙の生活に忙殺され、なかなか死とか真剣に考える時間がないような気がします。

私も大病を患い、生死の境を何度かさ迷いましたので生とか死とかに關しては、他の人よりも考える時間が多いような気がします。

あの時、死が迎えに来なかったのは、現世でやり残した事があるので帰されたのではないかと思えます。ですから自分で生きているのではなく、生かされているのだと実感しています。又、この世は、人間の修行の場なのではないでしょうか。修行が終わればおのずと死が迎えに来るのではないだろうかと思えます。

それまで自分に与えられた仕事を天命だと思い、人に迷惑をかけ

ずに力一杯生きる。これが一番大切な生き方だと思います。



総会後の懇親会

青春真盛り!

高校第22回卒業

毛呂文夫

高校生活を今振り返ってみると、良き時代だったと思います。私が入学したのが昭和四十二年、社会も高度成長で活気あふれている時代でした。夢と希望が純粹に思考できた時代だったと思います。初めて新幹線に乗って京都、奈良への修学旅行、夏のクラブ活動での合宿生活等、なつかしく思い出されます。それからみんなはよく歌を

くちずさんでいました。青春歌謡が流行していた時だったので、私も舟木一夫、三田 明等の歌が好きで放課後よく教室の中で、友達と一緒に歌っていました。
今思えばまさに「青春」ということばがびったりする高校生活だったと思います。

『時の針』を いただいて

高校第11回卒業

根岸 紘一

前略 この度は『時の針』第七号をお送りいただきましてありがとうございます。とてもなつかしく、母校を思い出しております。私は第11回卒業生ですが、なかなか児玉まで出向くことが出来ません。同窓会報もすでに七号とこのことなのですが、私共のところへは今後送付していただけるのでしょうか。実費負担ということでしたら支払うことも考えます。よろしくお願いいたします。

よい思い出を

高校第23回卒業

根岸 光久

平成四年四月、用事で児玉高校を訪問することができた。様変わりした校舎、体育館、グラウンドをながめ、夢中で過ごした高校時

代を思い出し、改めて母校に感謝した。自分が今あるのも、よき師、よき友の出会いからと感じる今日このごろです。

サッカー部に所属し、ボールを终日おい、部活動中心の生活であった。一杯の水のうまさを知り、夢を与えてくれた部活、ありがとうございました。

在校生のみなさん、日々の授業や部活動がんばって下さい。そして自分の将来を見すえ、精進して下さい。

高校時代、いかに多くの「思い出」をつくるかが「カギ」です。そして、思い出は財産です。

高校生時代を ふりかえって

高校第43回卒業

新井 一美

私は、児玉高校四十三回卒業生で、現在立正短大に在学中です。高校生活三年間は、私にとって長いようで短いものでした。最近では、高校生を見掛けると高校生の頃が懐かしく思い出されるようになりました。

高校生時代は、スポーツ・勉強によりうちこめ、人生の中でも、一番輝いていられる時期で、新鮮で爽やかで無邪気です。いまさら、まさしく青春真っ只中です。

二十歳が近づいてきた今となっては、あの頃に帰ることは出来ま

せんが幾つになっても気持ちにはあの頃のままでいたいものです。私は、まもなく社会に出ます。社会は、厳しい人間関係により成り立っています。その厳しい環境の中でも挫折せずに頑張っていきたいと思えます。



児玉夏祭り

ひさしぶり

高校第31回卒業

設楽 健一

去年、数年ぶりに母校の門をくぐった。自分が通っていた頃とは、ずいぶん違ってしまったが、あの長い校舎はきれいになり残っている。たしか中の廊下は、校舎を伸

ばしたような継目があったように思う。そういえば、卒業してまだ一年もたない頃に、同級生の一人からバイクを譲ってもらった。もう10年以上になるが、いまだにわが家において、直しては乗っていない。乗りたいかと思いつく。どうしているかな」と思いついた。ここ2・3年はろくに乗っていないが「ひさしぶり」という感じが乗っている。

『時の針』を いただいて

高女第4回卒業

松井 里子

日増々と山々の色づきを眺められ、ちらほら冬の訪れも聞こえて来る様になりましたが、如何お過ごしでしょうか。私は御存知とは思いますが高女四回です。長いこと皆様の為、学校の為に変なお仕事を惜しみなくして頂き感謝申し上げます。過日は又、『時の針』第七号を遠方までお送付下さいましてほんとうに嬉しくございます。私も満七十四才となり足腰をさすりながらの生活ですが、みちのくも今年秋の台風で殆どの家々の屋根が飛ばされ、はがれ、今も未だトタン、材料なく、大工、トタン屋も少なく大體、青、

黄のシートを板で止めて置き雨が降ると部屋へもり、学校も屋根全体、シートの所が多く南部(八戸方面)は大水でやられ、大変な東北ですが未だ何とか住んで居られる丈は雲仙の方より我慢出来ますが、これからの雪のシーズンが恐ろしく心配させられます。遅ればせ乍らお礼まで。合掌。

『時の針』を
いただいで

齊藤テル子先生(旧姓松井)

長雨がつづきました。先日は『時の針』会報をお送りいただきありがとうございます。懐かしくて、遠い児玉の山々を思い浮かべ何とも言えないあたたかい心になりました。

私は敗戦の昭和二十年食料事情のきびしい時でした皆さんが、さつまいもやお米を持って来て下さいました。連舎先生の法養寺の一室をお借りして、音楽の亀山先生と竹やぶに落ちている枝々を燃やして御飯を炊きました。生徒さんには何も教えてあげられず、むしろいろいろ教えていただいたり助けていただきました。今思うととても楽しい一年でした。

その後開業医に嫁いで一生懸命働いて、只今主人が病氣なので開業医は止め、看病に専念しています。早いものであれから四十五年

過ぎてしまい白髪がいっぱいになってしまいました。でも気持ちだけは若いと思って私なりに頑張っています。
近況をお知らせいたしました。事務局の皆様ありがとうございました。皆々様の御健康をお祈り申し上げます。



卒業式

催しもの
お知らせ

◎ 親睦旅行

とき 平成4年9月26日(土)
(日帰り旅行)

◎ 講演会
（母校の在校生諸君を対象に行いますが、ご都合のつきます、会員各位の参加をお待ちします）
平成4年11月21日(土)
午前10時～11時30分まで
母校・体育館
倉林昭美氏 高校第15回卒業生、社会福祉法人児玉福祉会 常務理事 特別養護老人ホーム オルトビオス児玉施設長
※ 申込〆切 4年10月31日

◎ 講演会

◎ 新年会
平成5年2月13日(土)
午後3時より
本市市・駅南口徒歩3分 埼玉グランドホテル
かいひ 5,000円
※ 申込〆切 5年1月23日

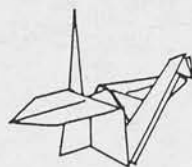
◎ 新年会

◎ 総会 (平成5年度)
とき 平成5年4月25日(日)
午後3時より
母校・視聴覚教室 なお総会終了後『懇親会』を母校の食堂にて(かいひ 2,000円)で行います。
※ 申込〆切 5年3月20日

◎ 総会 (平成5年度)

△ 催しもの申込及連絡先
石井敏郎(事務局) 児玉高校内
☎ 0495(72) 1591

編集後記



ご寄稿いただいた方々、また広告をいただいた方々に心よりお礼申し上げます。『時の針』第八号は例年より時期を早めての発行となりましたが、皆様方のご協力により無事に発行することが出来ました。六号・七号・八号と皆様にお届けしている間にも母校は体育コースの発足、新体育館の落成等着実に前進しています。これから益々の活性化を図るため、七十周年記念事業成功へ全会員の総力をあげてのご協力を心よりお願いいたします。